

同窓会だより

2008年度第1回歯学部教授会 同窓会定期協議会開催

渉外担当理事 飯田明彦

日時：8月11日(月) 19時～22時
場所：「海風亭」新潟市中央区営所通
参加者：(歯学部) 興地副学部長、齊藤副病院長
：(同窓会) 多和田会長、佐藤副会長、
福島副会長、鈴木副会長、成田専務理事、
飯田

多和田会長の挨拶および出席者の自己紹介に引き続き以下の報告、審議がなされた。

報告・議題

1. 歯学部から

1) 大学と歯学部の近況について

前田学部長作成の資料をもとに興地副学部長から以下の説明があった(敬称略)。

i. 人事

- 2月1日 医歯学総合研究科長
教授 前田健康
- 4月1日 新潟大学副学長
教授 山田好秋
- 4月1日 摂食・嚥下リハビリテーション学分野
教授 井上 誠
(同准教授より昇任)
- 6月1日 補綴学系分野
教授 魚島勝美
(医歯学総合病院教授より配置換え)
- 7月7日 包括歯科補綴学分野
教授 野村修一
(旧補綴学第一講座)
- 7月7日 生体歯科補綴学分野
教授 魚島勝美
(旧補綴学第二講座)

9月1日 硬組織形態学分野

准教授 依田浩子

(医歯学総合病院講師より昇任)

ii. 国家試験

歯科医師国家試験 84.2% (68.9%)

歯科衛生士国家試験 94.1% (96.0%)

社会福祉士国家試験 66.6% (30.6%)

()内は全国平均

iii. 卒業生の進路について(口腔生命福祉学科)

iv. 平成20年度概算要求内示事項

- ・口腔生命福祉学専攻設置
- ・大学間連携研究「口腔からQOL向上を目指す連携研究」

- ・X線マイクロアナライザー(機器更新)

なお、平成21年度概算要求事項として大学間連携研究(継続)、教育機器設備(新規)、研究機器設備(新規)を要求

v. 財務状況

- ・科学研究費補助金 採択金額は昨年よりやや上昇
- ・学内プロジェクト研究採択状況 助成研究1件、奨励研究29件
- ・学長裁量経費 8月末示達予定
- ・インセンティブ経費
- ・GP経費 最終年度
- ・大学間連携経費 特任助教2名採用 DNAマイクロアナライザー設置予定

vi. 環境整備

- ・第3講義室・保存実習室・補綴実習室の個別空調、小会議室双方向講義システム

vii. まとめ

全体としては、比較的順調に推移している。

2. 病院から

1) 病院の近況について

齊藤副病院長から以下の報告があった

i. 人事

- 8月1日 野村修一教授
義歯入れ歯診療室へ配置換え
- 8月1日 魚島勝美教授
冠ブリッジ診療室へ配置換え

ii. 中央診療棟について

2009年9月に引越し、10月に稼動開始の予定である。検査部門、救急救命センター、手術部などが入る。

iii. コーンビームCTについて

すでに設置が終了している。読影も含めた病診連携に活用していただきたい。

iv. デンタルチェアの更新

近年更新されていないため、大学や文科省に申請中である。

3. 同窓会から

1) 求人・求職、医院承継支援事業について

システムとして稼動しているが、これまで話しがまとまった事例はない。

2) 歯科医師国家試験対策支援について

国試対策に関する学生へのアンケート結果が報告された。大学担当者、後援会、同窓会が協力して国試合格率を高率に維持するための方策を前向きに検討していく。

3) 支部長会議について

別添資料に基づき2008年8月24日に開催されることが報告された。

4) 全学同窓会について

別添資料に基づき、新潟大学全学同窓会20年度事業計画について説明がなされ、2008年11月1日にホテル新潟で全学同窓会交流会が開催されることが報告された。

5) 賛助会員の募集について

他大学出身の教職員や大学院生にも同窓会のメリットを共有していただくための制度を構築する。賛助会員という名称については、誤解が生じやすいので見直していく。

以上のような報告、審議の後、時事問題などに

ついて活発な意見の交換が行われ、今後も大学と同窓会が協力体制を維持していくことが確認された。

2008年度歯学部同窓会支部長会議

同窓会副会長 鈴木一郎

2008年8月24日(日)にキャンパス・イノベーションセンター東京(CIC東京)にて同窓会支部長会議を開催した。現在、全国に17の支部活動があるが、これらは同窓会の下部組織というわけではなく、各々が独自の生き立ちと活動を行っており、本部と支部あるいは支部相互の組織的な連携があるわけではない。そこで、支部活動について互いに情報共有し連携を深める場として3年に1度、意見交換の場を設けているものである。1999年に新潟で開催して以来今回が4回目となるが、開催地は参加者の交通の便も考慮し、新潟と東京で交互開催としている。今回は東京開催の順番だが、同時期に学術委員会が首都圏セミナーと銘打った学術講演会を企画しているとのことで、ふたつのイベントを同日に行うこととした。CIC東京は国立大学財務・経営センターが運営・管理する全国の大学の首都圏における活動支援や産学官連携の拠点として設立された施設で、JR田町駅の目の前(東工大田町キャンパス内)というアクセス抜群の場所にある。新潟大学では2004年からCIC東京にサテライトキャンパス(新潟大学東京事務所)を構えており、今回の支部長会議はこのCIC東京内の共有スペースにて開催した。開催にあたってはサテライトキャンパスに常駐する専任教官や事務員の協力により、運営に費やす人的・経済的負担は最小限で済んだ。

さて、当日は午後1～3時の首都圏セミナーに引き続き午後3～5時まで支部長会議を行った。その概要を以下に記す。



出席者

同窓会本部：多和田孝雄(6期)、野村修一(3期)、
佐藤定雄(3期)、近藤修六(5期)、
福島正義(8期)、鈴木一郎(11期)、
成田秀(11期)、堤恒子(事務局)

同窓会支部：伊藤敦信(山形・9期)、齊藤礼治(福
島・9期)、本間正美(新潟・10期)、
山本武夫(富山・7期)、佐藤修(石
川・16期)、生田伸之(福井・18期)、
横林敏夫(長野・2期)、細見明夫(栃
木・10期)、堀江博(茨城・7期)、
上田健(群馬・5期)、金子充人(千
葉・8期)、小宮真博(神奈川・5期)

新潟大学：前田健康 歯学部長(14期)

プログラム

1. 会長挨拶および同窓会三役の紹介
2. 歯学部の近況報告(前田歯学部長)
3. 同窓会本部の近況報告(成田専務理事)
4. 全学同窓会の近況報告(福島副会長)
5. 各支部の近況報告
6. 協議
 - 1) 連絡先不明会員の調査について
 - 2) 天災時の対応について
 - 3) 支部の運営について(本部に望むこと・
支部運営の問題点など)
 - 4) その他

まず、多和田会長から挨拶と現執行部の紹介があり、続いて前田歯学部長から歯学部と病院の近況につき以下のような報告があった。2004年の国立大学法人化から5年を経て第一期中期目標の終盤という重要な時期である現在、大学間や学内での競争は激化しているが、新潟大学歯学部は学内においても、また他大学歯学部との比較でも高い評価を受けていること、歯学部では流動的人事や予算の傾斜配分が行われていること、教官選考は全国公募としていること、教授にしめる同窓生の割合は約半数であること、教官の定員削減については研究費等による雇用で補っているが、現在3

分野(小児歯科、歯科理工、歯科薬理)で教授ポストがないことなどの説明があった。また、文科省から「魅力ある大学院教育イニシアティブ」や「特色GP」といった教育プログラム支援の採択を受けているが、それに続いて現在「大学院GP」を申請中とのことであった。病院については、現在再開発が進行中で、2009年10月に中央診療棟が完成し、その後は外来棟の新築を予定しており医科と歯科が同居することになること、大型機器として嚙下造影装置やコーンビームCT装置を導入したことなどが報告された。教育関係では、今年初めて卒業生を出した口腔生命福祉学科では、社会福祉士国家試験合格率が66.6%と全国平均の2倍であり、就職については県市職員、病院歯科、大学院などバラエティーに富んでいるとの説明があった。最後に環境整備に触れ、老朽化した歯学部の建物に対して、改修、機器更新やバリアフリー化を行っているとの報告があった。以上、ともすれば歯科医師需給問題とも関連し歯学部の将来に危惧を抱く同窓生の声も聞こえる昨今、こうした心配を払拭してくれる心強い歯学部の現状と今後のストラテジーに支部長の皆さんも大変心強い思いを得たことと思う。なお、報告の中にあつた大学院GPについては、会議の直後に採択されたとのうれしいニュースが飛び込んできた。

続いて成田専務理事から同窓会本部の近況について、会費前納制度の導入、口腔生命福祉学科の卒業生を正会員としたこと、ブロックの廃止と都道府県代表幹事の新設、名簿取扱指針の策定、学生表彰制度の暫定運用、求人求職および開業歯科医院承継支援事業の創設などにつき説明があった。福島副会長からは全学同窓会の近況報告として、新潟大学60周年記念事業として西門の整備とシンボルマーク入りグッズ作成が計画されていることなどが報告された。

次いで各支部から近況報告があった。各支部からはそれぞれの規模に応じたセミナーや懇親会などを活発に行っていること、一方で会員の増加などに伴い地域の会員情報が把握しにくくなっている現状などが報告された。





最後に協議を行い、会員の増加や高齢化を背景として、また連絡不明会員や天災時の対応のためにも本部と支部との情報共有のためのネットワークをこれまで以上に強力なものとしてゆくことが合意された。支部運営に関しては、同窓会本部から支部へのサポートをお願いしたい、また支部長会議の開催回数を増やしてほしいなどの要望が出された。

最後に、横林長野県支部長の閉会の挨拶にて、2時間余りの支部長会議を終えた。その後、CIC東京近隣の居酒屋「吞来醍」にて、前田歯学部長はじめ会議出席者ほぼ全員による懇親会が盛大に行われた。

2,000名を超える会員の2/3が県外在住である現在、同窓会が各地の同窓生をたばねるネットワークとして機能するためには支部の存在は極めて重要である。各支部はその設立の経緯や組織規模が異なるためそれぞれの活動内容は異なっており、また支部が存在しない地域もまだまだ多い。今回の支部長会議では、同窓会が卒業生のための組織として活動してゆくためには、組織基盤を整えるとともに、同窓会における支部の位置付けや連携のあり方、更に支部が存在しない地域の会員サポートをどのように担保してゆくかが大きな課題であることをあらためて認識した。情報ネットワークを活用した普段のコミュニケーションと時々顔を合わせた飲みケーションなどにより全国の同窓生の意見を聞きながら今後の同窓会のあり方を考えてゆきたいと考えている。

第55回全国歯科大学同窓・ 校友会懇話会報告

副会長 佐藤 定 雄

日 時：平成20年10月18日(土)

午後 2時30分～5時30分

場 所：札幌グランドホテル 本館2階 金枝

当番校：北海道大学歯学部同窓会

来 賓：(敬称略)

日本歯科医師会 会長 大久保満男
(代理が出席)

北海道歯科医師会 会長 富野 晃

札幌歯科医師会 会長 藤田 一雄

北海道大学大学院歯学研究科

科長 川浪 雅光

* 新潟大学歯学部同窓会出席者：多和田孝雄会長、佐藤定雄副会長、鈴木一郎副会長

1. 講演会：「医科における歯科医師研修の意義」
講師：医療法人愛全病院 病院長 松原 泉
内容：

2002年2月12日に歯科研修医の救命センターでの研修が医師法17条違反であると起訴された元札幌市立札幌病院救命救急センター部長・松原 泉医師を講師に招いて、歯科医師の医科研修における意義について講演があった。まだ記憶に新しい事柄ではあったが、その詳細と問題点の大きさについて知らないままであった。一般歯科医師(養成)全般にも及ぶ大きな問題と関わっていることを松原医師の医療観を通して聴く機会があり有意義であった。

今日、複合疾患を有する高齢患者の増加、並びに医療の高度化・複雑化により緊急事態に遭遇する機会が多い中で、医師・歯科医師ともに診てゆかなければならない背景があるとし、特に歯科医師の対応能力を高める研修機関の提供と指導が医科病院施設でも行われなければならないと主張した。救急救命手技、治療の優先順位、専門治療の実際、合併症対策、感染症対策などの研修は医科病院で豊富な症例の下で効率よく研修できる。しかも重症度と緊急度の見分け方や対処の仕方を疾患部位別ではなく、症状から全人的に歯科医師は対処しなければならない。このように、安全かつ有効な歯科治療を行うには医師と同程度の能力が要求され、医科救急病院での救急救命研修は必須であると明言された。しかも口腔外科医や歯科麻酔医だけが救急救命処置





の研修を積むのではなく、歯科医師ならだれでも一律に身に付ける必要があるとし、歯科の臨床研修での義務化を主張した。

しかし、札幌高裁は「医師の資格をもつ研修医と何ら区別されることなく医療行為を行っており、研修方法としては極めてずさんだ」として松原医師及び弁護側の主張を退け、控訴棄却を言い渡している。そんな中、北海道大学歯学部（同窓会）中心に結成された「歯科医師の医科研修を支援する会」の支援活動と共に、松原氏は歯科医師の医科研修の充実を目指した活動を開始しているとのこと。後の質疑応答ではこのことについて、会場からひととき大きな支援の声が上がった。

おわりに：

北の大地でまさに薄氷の思いで松原医師は、私たちに本来あるべき歯科医師像を提唱してこられた。「医科における歯科医師研修」を指導し実施してこられた松原医師が有罪であっては、国民とともに私たちのまともな歯科医療提供が危うくなることを認識することができた。今後「歯科医師の医科研修を支援する会」の広報活動に理解を深めつつ応援したいものである。

今日的課題：

医療界では緊急時外科手術に対応できる麻酔医の不足が叫ばれている中で、歯科麻酔医の応援を求める声がある。これに関して賛否両論はあるが、もはや厚生労働省の遅疑逡巡は許されない情勢である。この点についても、対応方法を考える上で、松原医師は大きなヒントを提唱しているように思えて仕方ない。

2. 協議

議題(1) 次次期（平成22年）当番校：

北海道医療大学歯学部同窓会

議題(2) その他：

「松原 泉先生を支援する会」を作るべきではないかとの提案があったが、当面「北海道大学歯学部（同窓会）が中心に広報活動を活発に行う」こととした。

第55回 全歯懇・懇親会次第

日時：平成20年10月18日(土)

午後5時45分～7時45分

場所：札幌グランドホテル 別館2階・グランドホール

1. 開会の辞 北海道大学歯学部同窓会
副会長 塩井 孝
2. 挨拶 北海道大学歯学部同窓会
会長 村井 清彦
3. 来賓挨拶 札幌歯科医師会 藤田 一雄
参議院議員 石井みどり
4. 乾 杯 北海道大学歯学部同窓会
顧問 小山田 哲
5. 懇 談
演奏 北海道大学交響楽団 弦楽四重奏
都ぞ弥生など
余興 北海道大学応援団
6. 閉会の辞 北海道大学歯学部同窓会
顧問 小野木正章
(敬称略)



2008年度新設国立大学歯学部
同窓会連絡協議会

同窓会副会長 鈴木 一郎

10月18日の全国歯科大学同窓・校友会懇話会(全歯懇)に続いて翌19日の午前中、札幌アスペンホテルにて北海道大学歯学部同窓会の主催で新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会(国歯協)が開催され、多和田、佐藤、鈴木の3名が参加した。

1. 開会の辞 北海道大学歯学部同窓会
常務理事 小路口研治
2. 当番校挨拶 北海道大学歯学部同窓会
会 長 村井 清彦
3. 出席者紹介
4. 講演会
講師 大阪大学歯学部同窓会
顧問相談役 玉利行夫
- I. 国歯協のあゆみ
 - ①戦前の医学・歯学教育について
 - ②戦後の歯学教育への考察
 - ③旧6校会と中原爽執行部誕生
 - ④国歯協の果たしてきた意義
- II. 皆保険制度が危うい！一みんなで考えよう、この国の形一
 - ①国民皆保険制度崩壊の危機
 - ②後期高齢者医療制度への考察
 - ③社会保障国民会議の中間報告
- III. その他
第161回日歯代議員会報告
5. 報告
6. 協議
 - 1) 同窓会誌の充実について(広島大学)
 - 2) 同窓会による成績優秀者の表彰について
(北海道大学)
 - 3) 同窓会による会員の表彰について
(岡山大学)
 - 4) 次期・次々期当番校について
 - 5) その他

7. 次期当番校挨拶 九州大学歯学部同窓会
会 長 石井 潔
8. 閉会の辞 北海道大学歯学部同窓会
常務理事 高橋 大郎

村井北大歯学部同窓会長の挨拶に続き、大阪大学歯学部同窓会顧問相談役の玉利行夫氏による1時間半にわたる講演があった。玉利氏は長きにわたり阪大歯学部同窓会会長を務められ、国歯協を主導的な立場でリードしてきた方である。

講演の前半は「国歯協の歩み」と題して、戦前から戦後の歯学教育の変遷、国歯協が「国立の総合大学の歯学部」という共通環境を持つ同窓会の集まりという位置付けでスタートしたこと、そして歯科医療行政や歯科医師会との関わりの中で国歯協がなすべき役割や今後の方向性について述べられた。後半は、今後の歯科医療政策について広く日本の今後の社会保障制度のあり方も交えて、氏の豊富な知識と経験に基づいた提言があった。玉利氏は病み上がりとのことであったが、100ページにも及ぶ膨大な資料とそのエネルギーな講演には驚くばかりであった。

続いて報告では、大阪大学からは講演会の会員向けオンデマンド配信を開始したこと、広島大学からは代診医派遣制度を始めたこと、また徳島大学からはオールデンタル主催の補助について経験校の意見を聞きたい旨の発言があった。

協議についてはその討議内容の概要を記しておく。

- 1) 同窓会誌の充実について
広島大学から、同窓会誌の充実のため各校の同窓会誌を国歯協参加校相互で共有してはどうかという提案があり、名簿など個人情報に考慮を払いつつ会誌を相互に送付することとした。
- 2) 同窓会による成績優秀者の表彰について
北海道大学より各校での制度の有無や運用について質問があった。広島、大阪、新潟の各大学同窓会が表彰制度を持ち、広島は年間30万円(1名5万円)の予算を用意していること、大阪は次年度より大学の学生の短期留学制度に対して20万円



の補助を予定していること、新潟は昨年より表彰を行っているとの発言があった。

3) 会員への表彰について

岡山大学より、継続性のある会員表彰制度を考えたいが各校での事例を参考にしたい旨の発言があった。大阪大学からは、情報収集の困難さから叙勲など公的なものに限って表彰対象としていること、北海道大学からは歴代支部長に表彰を行っていること、新潟大学からは同窓の先輩が頑張っていることを後輩に知らせる目的で表彰を行っていることが報告された。

4) 次期・次々期当番校について

全歯懇の開催地とあわせて次期は九州大学、次々期は北海道大学が当番校となることが承認された。

5) その他

九州大学から、次回の全歯懇当番校である九州歯科大学が翌日に開催される国歯協にオブザーバ参加したい旨の希望があるので検討願いたいとの発言があった。これについては国歯協の現在の位置付けや今後の方向性などとも関連して多くの意見が出されたが、九州歯科大学のオブザーバ参加に関する合意は得られず、次年度以降の継続検討課題となった。次いで、大阪大学から、今後の歯科における在宅診療の重要性にかんがみて、そのような学術事業を各校で検討願いたいという提案や、新潟大学から、歯科医師臨床研修後の同窓生の動向について次年度の検討課題としてほしいとの提案があった。

国歯協は全歯懇とは異なり小規模かつ共通の背



景や問題意識を持つ同窓会の集合であるため、今回の協議にもあるようなちょっとした問題や悩みを共有し相談することができる有用な議論の場である。しかし、上記のオブザーバ参加の議論などを通して、各校が考える国歯協の位置付けには多少の温度差があると感じた。国歯協で括られる同窓会を玉利氏のいう「国立総合大学の歯学部」のままとするのか、あるいは今後「国立大学の歯学部」や「国公立大学歯学部」として範囲を拡げてゆくかは、国歯協の立ち位置を明確とし、今後歯科医療や歯学教育とどう関わってゆくかを考える上で早急に決着すべき問題であろう。

歯学科 6 年生、口腔生命福祉学科 4 年生と歯学部同窓会との交流会

27期 渉外担当理事 多部田 康 一

11月21日(金)に「歯学科 6 年生、口腔生命福祉学科 4 年生と同窓会との交流会」が歯学部大会議室で開催されました。歯学科 6 年生、口腔生命福祉学科ともにほぼ全員の学生に参加いただきました。昨年度より口腔生命福祉学科の 4 年生にも交流会へ参加していただくことになりその人数からも大変賑やかなものとなっております。鈴木副会長の司会進行により会は始まり、多和田会長よりのご挨拶においては、歯科医師不足の昔とは事情の一変した現在、卒業していく皆さんは自分から積極的にいろいろなことに取り組み、道を切り開いていくようにといったお話をいただきました。歯学部後援会の有松先生より学生への激励と、成田専務理事よりの新潟大学歯学部同窓会の事業・活動内容についての説明のあと、乾杯へと移り、アルコールとともに会は和んでゆきました。昨年は会の途中において同窓会先生からの講演も企画されましたが本年は各テーブル同窓会の先生方と学生の親睦を深めることが中心となりました。最後は野村副会長より国試に向けて全力をとの激励と、今後若い人の力で同窓会を盛り上げてくださいとのご挨拶をいただきました。以前 6 年生が就



職先を探す夏休み前に行われていた交流会ですが、研修医の必修化後、進路相談・アドバイスといったことが具体的に難しいことから、本年も歯学科6年生の臨床実習の終了に合わせて開催されました。趣旨としては本学歯学部同窓生として歯学部同窓会の活動について理解していただき今後同窓会を歯学科、口腔生命福祉学科共に協力してより盛り上げて頂くお願いになったかと思いません。将来同窓会の一員として協力いただく学生とこのような機会を設けることによって、同窓会の活動について理解をしていただけるものと考えられます。



同窓会セミナー インプラントベーシックコース 「インプラント治療の基礎—安全で確実な医療を提供するために—」を受講して

23期生 原田 学

この数年、(いや、十数年か?)歯科界はインプラント治療流行りである。講演会や勉強会、商業

誌、ありとあらゆる所でインプラント治療症例が華やかに取り上げられている。インプラントをしない歯科医師は時代遅れと言わんばかりに。

翻って私はと言えば、相も変わらず旧来のスタンダードな欠損補綴を行っている。そもそも卒後、旧第二補綴科に在籍させて頂いていたのでインプラントに触れる機会には比較的恵まれていた方だと思う。その後もセミナーや講演だけは何度となく参加した。にもかかわらず治療は行っていない。いくつか理由がある。

- その1 色々なメーカーがありすぎて一つにしぼれない
- その2 初期の導入コストがかかりすぎる
- その3 外科処置失敗のリスク
- その4 異物を生体に貫通させることに対するどこもない嫌悪感
- その5 インプラントを施した患者様が高齢化した後の予後不安感

既にインプラントを頑張ってらっしゃる先生方は一笑に付されるかも知れないが、導入に踏み切れない先生からすると、激しくご賛同いただけるのではないだろうか?

しかし、日々の臨床の中で、インプラントを施さなければ咬合崩壊を食い止めることができないのではないかと、思う症例が少なからずあることもまた事実で、そのような時のカードとしてインプラントの手法を会得したい思いは常に持っていた。そんなときに同窓会セミナーのインプラントコースの話が舞い込んだ。メーカーの片寄った話でなく、大学の、中立の立場から色々な話を聞けるチャンス。受講をあっさり決めた。

当日は同窓会セミナーらしく懐かしい顔ぶれ。特に我々23期生は講師に2人、委員に1人、受講生に4人、あの会場に7人が集結! ミニ同級会状態であった。

初めにインプラント治療部の魚島教授から、今回のコースの趣旨に付いて説明があった。先生は大きく分けて2つのことを伝えたかったように思う。

1. 今の歯科界ではもう既に「自分はインプラン



トわからない」ではすまされない時代になってきている。インプラント治療に付いて正しい知識と技術を持ってぜひ取り組んで頂きたい。

2. ただし、いかにインプラントがすばらしい治療法であると言ってもあくまで補綴治療の1オプションであり、正しい治療計画を立案し、それに沿った適用でなければならぬ(そこを勘違いしている事例が散見されるので注意して頂きたい)。

背中を押されると同時に、間違いが起ころぬ様ビシッと手綱を引き締めて頂いた。その後、講義の基本的な部分は、何回かインプラントの講習を受けている先生であれば既に知っている内容であったと思うが、大学で診査をした場合の料金とか、連絡先、CT用ステントの作り方、インプラントのトラブル例、最新の考え方や材料、等々、普段はなかなか聞くことができない貴重な話も多かった。

私が医局に在籍していた十数年前には、まだ術前CTを撮影するというのは一般的ではなかったが、今では基本的に術前CT撮影を行うということだった。レントゲンでは大丈夫に見える術野でも、CTをとってみると非常にリスクな部位であることもあるそうで、ちょっと怖くなる。やはりインプラント治療をやるのなら今の時代CTは必須のようだ。メーカー主催の講習会では、「パノラマだけでも大丈夫」というニュアンスのことが多かったように思うが、この辺にも大学の厳格さを感じた。CTのみの依頼も受けるそうなので、機会があればぜひ活用してみたい。

貴重な話が聞けた有意義な講習だったが、できれば、各インプラントの利点欠点等を、中立の立場からもっと詳しく聞けたら良かったなと思った(アドバンスコースでは話が聞けるのだろうか?)。実際の埋入の様子のビデオ映像なども初心者からすると見てみたかった。また、植立実習では大学で使用中の4メーカーのインプラントのどれか一つが割り当てられるというシステムだったが、できることならばわずかな時間でも良いのですべてに触れてみたかった。これらは今後セミ

ナーがシリーズ化する様であれば大いに期待したい。

今回の講習でインプラントがさらに身近になった。大学が後押ししてくれているような心強さも感じた。元々、インプラントは基本術式自体はそれほど難しいものではない。導入に向け、あとは、症例の見極めと、少しの勇気と、…「少し」とは言えない投資…か…。

最後に、休日にも関わらず我々受講生のために貴重な講義、実習をして頂いた先生方、並びに学術委員の皆様、本当にありがとうございました。

インプラントベーシックコースに参加して

27期 高木正道

日々の臨床の中で、“ここにしっかりした歯があったらどんなによいことか”と思うことが多々あると思います。インプラントは歯の無いところに歯(歯根)を作ることができる、患者様にとっても歯科医師にとっても非常に魅力的な技術です。私自身、インプラントを導入しようと思うのだけれどもいろいろなシステムがありどれがいいのかよくわからない、インプラント治療における基礎的なことについて知りたい、と思っていました。今回の同窓会セミナーは内容的にぴったりでしたので参加申し込みをさせていただきました。

セミナー当日、久しぶりに訪れた歯学部には懐かしさとすこしの緊張がありました。講師の先生方にもちらほらとお世話になったお顔が見え、安心して(?)受講することができました。インプラントの構造・解剖学的要件・解剖などの講義に引き続きインプラントの位置を正確に決めるための診断用ステントの説明および実習をしました。つかの間の昼食休憩の後は数種のシステムを用いてのインプラント埋入実習でした。慣れない手順や道具に戸惑いながらもたくさんいらっしゃるスタッフの先生方に親切にご指導いただき、なんとか時間内に終えることができました。その後はインプラントの印象から上部構造の作成・インプラ



ントの危険性についての講義を受け、あっという間にセミナー終了の時間となりました。

今回のコースを通じて感じたのは、顎骨の三次元的な形態を把握した上でインプラントの計画を立てることおよびインプラント埋入を方向・位置・深さともに正確に行うことの重要性でした。それともうひとつ印象的だったのは、“インプラントは補綴の1オプションである”という考え方でした。一部位の欠損だけで無く、対合歯や口腔を総合的に見た上でインプラント治療を考えることの重要性を改めて感じました。

内容の濃いコースを一日で教えていただくため駆け足になるのは仕方ありませんが、もっと各々のパートでゆっくり先生方の講義を受けられれば良かったと思いました。なお、今回お世話になりました講師・インストラクターの先生方にはこの場をお借りして御礼申し上げます。また機会がありましたら同窓会のセミナーに参加させていただきたいと思います。

